

## ◎中学校完全給食実施に向けた検討状況について

### 1 開催状況

開催日	会議名
10 月 20 日	中学校完全給食推進連絡協議会*【第 1 回】
10 月 28 日	教育委員会 10 月定例会
11 月 7 日	平成 28 年度第 2 回総合教育会議

#### 中学校完全給食推進連絡協議会

学校運営に関する課題等の情報を共有し、その解決策等を話し合うため、教職員、保護者、教育委員会事務局で構成する会議で、平成 28 年 10 月 1 日付で設置した。

#### 【構成員】

区分		推薦団体
中学校 教職員	校長、教頭、教諭、養護教諭	中学校長会、中学校教頭会、横須賀市技術・家庭科研究会、学校保健研究会、三浦半島地区教職員組合
小学校 教職員	校長、教諭、栄養教諭、学校給食調理員	小学校校長会、食教育研究会、三浦半島地区教職員組合
保護者（小・中学校）		横須賀市 PTA 協議会
教育委員会 事務局	学校教育部長（*座長）、総務課長、教育政策担当課長、教職員課長、学校管理課長、教育指導課長、支援教育課長、学校保健課長、スポーツ課長	

### 2 検討組織等における質問・意見等

\* 質問や意見の末尾にどの会議等で出た意見かを【 】の略称で表記しています。

【連】 中学校完全給食推進連絡協議会

【教】 教育委員会定例会

\* 「⇒」は質問に対する会議中の回答等を記載しています。

#### (1) 実施方式について

- ・食物アレルギーなどについて、親子方式では非常に綿密に小学校と中学校で連携していかないと大きな事故につながるのではないかと危惧している。【連】
- ・小学校と中学校は時程も違うので、食事を提供するまでの時間が、あまり空くようだと安全面に影響するのではないか。【連】

## (2) 検討組織について

- ・調査委託について最終的な情報がない状況で、この会議（中学校完全給食推進連絡協議会）を続けていくのか。調査委託の結果をしっかりと頭に入れながら、意見交換をした方が良いのではないかと感じた。【連】

⇒他の検討組織等の検討状況も含め、現時点での情報を共有し、理解を深めるためにも予定どおり開催し、調査委託の結果が出る段階では、多くの情報を持った上で議論していただきたい。

## (3) 学校運営上の課題について

### ア 日課

- ・中学校給食がスタートすると、今よりも時間を確保しなければいけない。準備や片付けの時間も含めて、現状と比較して20分から30分は長くかかるのではないかと考えており、その時間をどこで生み出すかというところが課題である。

#### 【連】

- ・勤務時間が早くなっても、部活動の時間は確保していかなくてはいけないので、働く時間が長くなり、教員の負担が増えてしまうことも心配である。【連】
- ・学校の日課が変更になれば、少なからず保護者にも影響が出てくるかと思う。【連】
- ・中学校は、教科担任制であるが、4時間目が終了して担任が責任を持つとなると、どれくらいの時間で教室に戻れるか、戻れない場合は誰が担当するのかも検討していかなくてはならない。【連】
- ・中学校の時間割が短縮できないのはなぜか。他都市では実施できているのではないかと。【連】

⇒実際に中学校給食を実施している都市はあるので、短縮できないわけではないと思われる。現状の時間割の中に、どのように給食時間を捻出するかが課題となる。

### イ 給食指導

- ・給食指導については、中学校の教員は経験がないので、小学校との交流や研修などについて検討してほしい。【連】
- ・中学校の教員にも手引きや指導方法を徹底していかないと、大きな事故につながる恐れがあるので、小・中学校間で連携していかなければならない。【連】

### ウ その他

- ・実施方式により、国の基準上は、栄養教諭・学校栄養職員の配置数が変わってくるが、給食指導の面や教職員の負担軽減の面からも専門職を各校に常勤で1人配置していただきたい。【連】
- ・食物アレルギーの事故を減らしていくという点では、小中一貫の食育ということも考えると、小学校で安心してアレルギーの面、衛生面、栄養面で十分に検討さ

れたメニューを継続できると事故防止にもつながるのではないか。【連】

- ・食物アレルギー対応は、どの実施方式であっても確実な連絡体制を整備して取り組まなければならない。小学校のノウハウを中学校に伝えることも重要である。

【教】

(4) 給食の内容等について

- ・食育とは実際に子どもたちに対して何かしているのか。【連】

⇒食育という教科の時間があるわけではないが、指導計画を立てて、食育に取り組んでいる。給食時間を中心に、栄養素の学習や食べる量の指導などを行っている。